



TITLE:

図書館の動き

AUTHOR(S):

CITATION:

図書館の動き. 静脩 1998, 35(1): 8-9

ISSUE DATE:

1998-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37498>

RIGHT:

***** 図書館の動き *****

京都大学附属図書館秋季展示会 予告

「日本の西方・日本の北方
—古地図が示す世界認識—

京都大学附属図書館所蔵
室賀信夫コレクション古地図展

開催期間：平成10年10月31日（土）
～11月15日（日）

11月3日（火）休館

開催時間：午前10時～午後5時（入場は午
後4時半まで） 入場無料

会 場：京都大学附属図書館展示ホール
（3階）

附属図書館が所蔵する室賀コレクション
（京都帝国大学文学部助教授であった室賀
信夫先生旧蔵の古地図、地理学関係資料）
の中から古地図約50点を精選し、「蝦夷地
の地理像と新訂万国全図」「ヨーロッパ製
アジア・日本図」「マテオ・リッチ系・蘭
学系世界図」「仏教系世界図の展開」「中国
系世界図」に分けて展示・解説します。

「室賀信夫と古地図研究」のコーナーも
設けます。

記 念 講 演

演 題：洋学からみた室賀コレクション

講 師：松田 清氏（総合人間学部教授）

日 時：平成10年11月6日（金）

午後2時～4時

会 場：京都大学附属図書館 大会議室
（4階）

入場無料

新業務システムについて

平成10年度のワーキンググループが新たに立
ち上がりました。

新業務システムは、ほぼ順調に稼働していま
すが、一部まだ実現していない機能があります。
附属図書館、部局図書室（館）の図書系職員75
名が新システムをより使いやすくするために
ワーキンググループのメンバーとして要望実
現・改善に取り組んでいます。

新閲覧システム

1月から理学部中央図書室、4月から附属
図書館、部局図書室（館）で次々稼働して
います。

現在、附属図書館、総合人間学部、経済学
部、基礎物理学研究所、工学部電気系教室、
理学部中央図書室、物理学教室、人間・環
境学研究科の図書室（館）で閲覧システム
が動いています。

新 ILL システム

新 NACSIS-ILL の本稼働に合わせ京都大学
も新 ILL システムを稼働しています。

4月21, 23日 新 ILL システム説明会。
参加者38名。

9月3, 4日学術情報センターと共催で新
ILL 地域講習会を試行で行いました。

新受入システム

図書受入、雑誌受入システムも4月から稼
働しています。

図書受入トータルシステム、雑誌受入シス
テム、登録番号取得システムの説明会を開
催しました。

来年2月頃に図書・雑誌受入システムの全
体説明会を開催する予定です。

新目録システム

1 月から新 CAT 対応で本稼働している新目録システムは、6 月に CASE 3 機能と、NACSIS—AUTO による一括登録システムが実現しました。

メーリングリストが、全学の連絡・調整に大いに役立ちました。

6 月に学内目録担当職員システム研修会（4 日間）を行いました。10月14日～16日学術情報センターと共催の新 CAT による地域目録講習会を開催します。

電子図書館システム

電子ジャーナルも着実に利用され、新たなサービスの準備をしています。

今年度の貴重資料の電子化は、附属図書館所蔵の重要文化財に指定されている貴重図書と、富士川文庫の一部が電子化されて提供される予定です。ただいま作業中です。

部局図書室からのお知らせ

生態学研究センター図書室

大津本館図書室は、今秋琵琶湖岸の現在地を離れ、大津市瀬田丘陵へ移転のため、9月26日～当分の間閉室の予定です。近年クローズアップされている生態学は、図書分類も DDC21では、Ecology が大きく見直されました。

遠隔地ですが、新しい分野の蔵書の利用をお待ちしています。

なお、京都分室は従来通り利用いただけます。

附属図書館利用統計（平成9年度）

利用対象者数

1. 学内教職員・学生数

28,568人

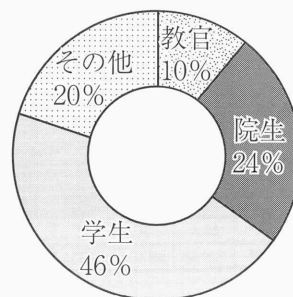
2. 登録者総数

29,993人（平成10年5月1日現在）

（内訳）

教官	3,085人
院生	7,331人
学生	13,525人
その他	6,052人

その他には職員、卒業生、生協職員、スタンフォード日本センター学生、放送大学生等を含む。



入館利用状況

年間入館者総数 781,485人

（内訳）

学内	入館期	775,703
	マニュアル*	3,224
学外	閲覧**	1,640
	見学	918 (人)

マニュアル*：忘れたり、紛失等による利用証不携帯の入館者

**閲覧：学外者の特別閲覧手続きによる入館者と共通閲覧証による入館者